

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	3 (4) 高等学校
				領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (児童・生徒数)	<small>ふりがな</small> 北海道斜里高等学校 (157人)				
所在地 (電話番号)	〒099-4116 北海道斜里郡斜里町文光町5番地1 (0152-23-2145)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.shari.hokkaido-c.ed.jp				
研究のキーワード					
世界自然遺産・知床，総合学科教育，E S Dの普及，評価					
研究結果のポイント					
<p>【取組①】 「知床・産業系列」における観光系科目や特別活動を本研究の中心的な取組として位置付け，「世界自然遺産・知床」等の地域をフィールドとしたE S D活動（環境・地域学習）の実践における取組の検証，改善・充実を図った。その際，生徒の変容を把握する評価方法として，1枚ポートフォリオを導入した。</p> <p>【取組②】 E S Dの理念を全教科・科目等へ波及させるため，本年度は試行的にE S Dの視点に立った学習指導案の作成を行った。</p> <p>【取組③】 生徒の自主的な課外活動を支援した結果，国際会議に高校生として初参加となる実践発表をさせることができた。</p>					

1 研究主題等

(1) 研究主題

「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたE S D活動の改善・充実，及び学校の教育活動全体へのE S Dの波及 ～観光教育による，地域に誇りを持ち，地域の持続発展に貢献できる人材の育成～

(2) 研究主題設定の理由

ア 生徒の現状とこれまでの取組

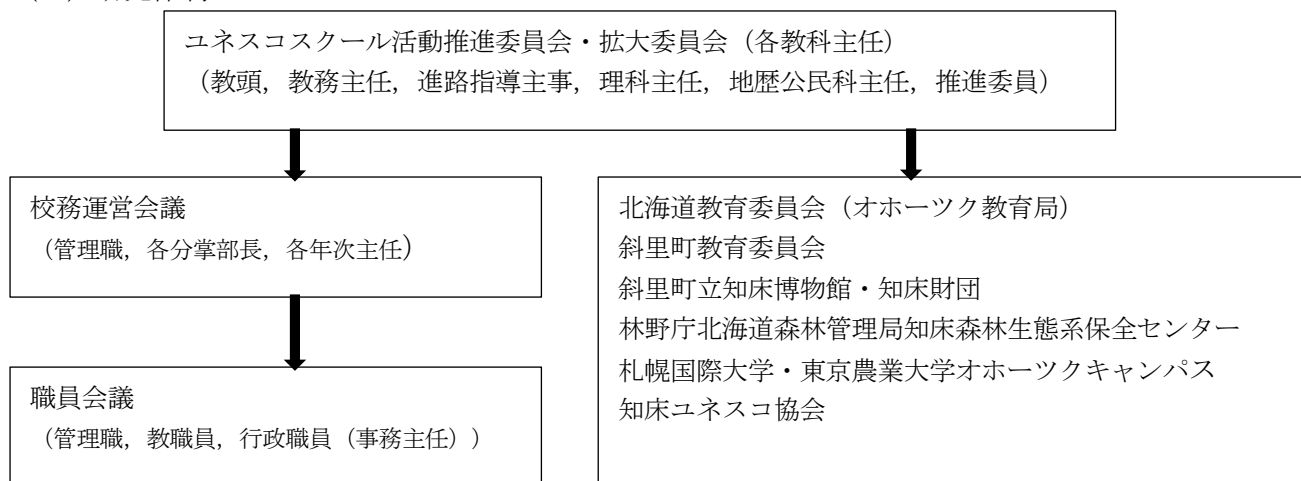
知床の豊かな自然環境や独自の歴史・文化が身近にあるがゆえに，生徒はそれらの希少性・重要性への気付きや，それらを持続発展させていく必要性の認識が不十分であることが課題であった。そこで，総合学科への学科転換を機に，地域の豊かな自然を教材とした学校設定科目「知床自然概論」を設定するとともに，特別活動として「史跡巡検学習」，地域産業と連携した商業科目「課題研究」等を導入し，地域の教育力を活用している。また，大学との連携を通して地域理解を促す教育に取り組んでいる。これらの実施に当たっては，総合学科の学校設定科目「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」とも合わせて，報告会等の発表の機会を取り入れ，自ら考え，学び，伝え，行動する積極性や表現する能力の育成等，課題解決を目指している。これらの地域をフィールドとした実践によって，本校はユネスコスクールとして加盟承認されている。

イ 研究主題設定の理由

このような経緯から，生徒に，地域の魅力等に気付き，誇りを持って情報発信する気概，自ら考え，学び，伝え，行動する積極性や表現する能力等を育み，魅力的な学校としての持続発展や，将来の地域を担い，地域を持続発展させる人材の育成へとつなげることを目的として実践研究を行うこととしている。本研究指定は2期目であるが，これまで実践してきた

「世界自然遺産・知床」等の地域をフィールドとしたE S D活動を検証し、取組の改善・充実を図るとともに、E S Dの理念を全教科・科目、特別活動、課外活動へ波及させ、学校の教育活動全体を通して、生徒に関わる課題の解決に向けた実践を行うこととした。なお、本研究では、「知床・産業系列」における観光系科目での学習活動を初年度の中心的な取組として位置付けている。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成29年度	<p>ア 管理職の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営シラバスへのE S D活動推進の明記(項目立) ・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果の教職員周知 <p>イ ユネスコ活動推進委員会等の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進・評価(検証)方法等検討 ・各教科・科目における取組指標作成, 全体提示 ・先進校視察による効果的な実践事例等の情報収集 ※ ・研究指定校事業連絡協議会出席, 成果の教職員周知 ※ <p>ウ 教職員の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会の実施(実践の方向性等の明確化) ・各教科・科目の教育活動開始, 知床・産業系列関係科目の授業開始 ・具体的取組の推進(観光系科目での学習活動の準備, 改善工夫, 実施, 各教科・科目でのアプローチ) ・校内研修会(視察報告・協議会報告等)の実施 ※ ・E S Dに関わる公開授業, 研究授業, 合評会等の実施 ※ ・学校評価(自己評価, 学校関係者評価等)へのE S D関係項目の導入(検討), 評価の実施(実践の検証) ※ ・成果と課題を踏まえた次年度全体計画等改善, 教育課程編成, 指導方法改善等への反映※ <p>エ 生徒の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関わる活動, 生徒会活動, 課外活動等における自主的な活動の推進 ・取組のまとめ活動と学習成果発表会等における実践報告(保護者, 中学生, 関係者, 地域住民等への報告) ※ <p style="text-align: right;">ただし, ※印は10月～3月の取組を示している。</p>
--------	--

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

教育課程上の全ての教科・科目, 総合的な学習の時間, 特別活動, 課外活動においてE S Dの理念を踏まえた教育活動を行うこととするが, 実施に当たっては, 1年目(本年度)は本研究の中心的な取組となる教科・科目や特別活動等を位置付けて, それらを中心に実施する。そして, 2年目は1年目の成果を踏まえて, 他の教科・科目等へ波及させるための研究を行う。その際,

実施可能な部分（単元・授業内容等）からアプローチを行うこととする。また、E S Dを教育活動の主軸とした学校のE S D全体計画（シラバス）等の作成を目指している。

(2) 具体的な研究活動

数多くの取組を行っているが、ここでは主なものを取り上げる。

【取組①】

以下に示した科目や特別活動を本研究の中心的な取組として位置付け、「世界自然遺産・知床」等の地域をフィールドとしたE S D活動（環境・地域学習）の実践における取組の検証、改善・充実を図った。その際、「知床・産業系列」における生徒の変容を把握する評価方法として、特別活動については、1枚ポートフォリオを導入し、その効果を検証した。

学校設定科目「知床自然概論」（3年次選択科目）	※関連教科：理科
特別活動「知床自然体験学習」（1年次学校行事）	※関連教科：理科
特別活動「史跡巡検学習」（1年次学校行事）	※関連教科：地理歴史
「知床・産業系列」関連科目（2・3年次選択科目）	※関連教科：商業、英語など

ア 事前・事後指導の改善（ワークシート等の改善）

イ 特別活動「知床自然体験学習」及び「史跡巡検学習」における1枚ポートフォリオの導入・実施・分析

【取組②】

E S Dの理念を他の教科・科目等へ波及させるため、本年度は「知床・産業系列」関連科目の一部について、E S Dの視点に立った学習指導案を作成（試行）し、研究授業を行った。

【取組③】

「知床・産業系列」関連科目を選択した生徒による自主的な課外活動を支援した。

ア 課外活動（部・同好会活動等）における生徒の自主的な活動の喚起（上級大会進出）

イ 一流企業主催の国際会議（ファイルメーカーカンファレンス2017）での生徒実践発表

(3) PDCAサイクルへの取組について

- (P) 3月～ 4月 ・「目指す生徒像」及び「身に付けてほしい資質・能力」の全職員での共通理解の促進
- ・生徒の意識調査の内容の確認
 - ・地域の魅力等の気付きや、地域に誇りを持って情報発信する気概、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力等を育み、魅力的な学校としての持続発展や、将来の地域を担い、地域を持続発展させる人材を育成するための取組の計画
- (D) 4月～ 7月 目標達成に向けた取組（授業・課外活動等）
- (C) 7月 生徒の意識調査
- (A/P) 8月 意識調査の検証及び取組への改善検討
- (D) 9月～12月 目標達成に向けた取組（授業・課外活動等）
- (C) 12月 生徒の意識調査
- (A/P) 12月～ 1月 意識調査の検証及び取組への改善検討
- (D) 1月～ 3月 目標達成に向けた取組（授業・課外活動等）
- (C) 3月 生徒の意識調査
- (A/P) 3月 目標達成に向けた取組（授業・課外活動等）

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

【取組①】

事前・事後指導の改善として、ワークシートの改善を行った。その結果、昨年度まで

3. 非常に深い内容の学習ができる知床自然概論。

ちなみに、このレベルで展開されている生命環境系授業では、「知床自然概論」は全国トップレベルの内容です。

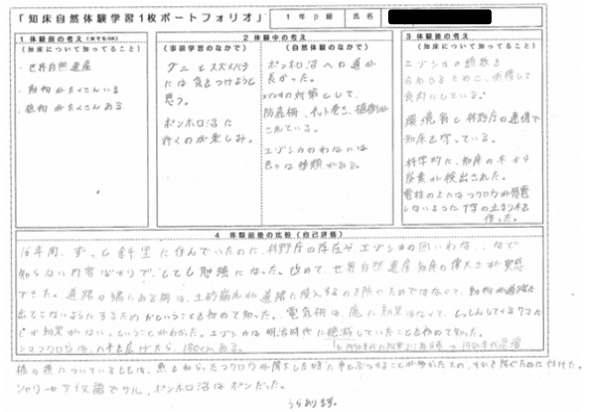
皆さんが、これまで学んだ内容を活かして、観光客に何か伝えらるるなら、何を伝えませんか？

（良いポイントでも可、注意・啓発したいことでも可）

知床自然遺産に登録された理由が絶対に溢れる。
 そして、どういった生態系かという点もたまたま色々な工場の特徴、植物からいる個々の特徴を伝えない。そして工場が何かの事を知りたい人から聞いて思いつく、それを伝えている影響がどうなるかを詳細に伝えている。観光客に伝えてほしい。

と比較して、生徒は授業を受ける意義を実感し、後世に伝えなければならない情報や課題を明確化することができるようになった。

また、特別活動においては、1枚ポートフォリオを導入したが、右図のように、生徒は世界自然遺産・知床についての基本的知識や課題を着実に定着させることができ、生徒の理解度の「見える化」（可視化）につなげることができた。



【取組②】

国立教育政策研究所教育課程研究センターが提案した「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」（https://www.nier.go.jp/kaiatsu/pdf/esd_leaflet.pdf）を参考にして、「ESDの視点に立った学習指導案」を試行的に作成した。他の教科・科目等へ波及させるためには、まだまだ改善の余地があるが、7つの視点に立った授業構成が一目で理解できるように工夫した。

本時の指導目標	(1) CM作成に当たっての趣旨を説明 (2) インバウンドの説明 (3) CM作成に当たっての注意 (4) 観光CMの例を見せイメージを膨らませる (5) 観光CMの作成														
展開	<p>2 インバウンドについて ○インバウンドについて説明する。 ○中々なぜ外国人観光客が日本を訪れて観光を楽しむのかをイメージさせる。また、北海道の中でも観光圏と観光圏では需要が違うことを理解させる。</p> <p>3 CM作成にあたっての注意について</p> <p>4 観光CM例について</p>														
85	<p>○重点点 ・日本を訪れる外国人観光客の楽しさ (ESDの視点表)</p> <p>単元名：観光CM（知床斜里の魅力）を作成しよう！</p> <p>ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度</p> <table border="1"> <tr> <td>① 批判的に考える力</td> <td>② 未来像を予測して立てる力</td> <td>③ 多面的・総合的に考える力</td> <td>④ コミュニケーションを行う力</td> <td>⑤ 他者と協力する態度</td> <td>⑥ つながりを尊重する態度</td> <td>⑦ 進んで参加する態度</td> </tr> <tr> <td>【批判】</td> <td>【未来】 ○</td> <td>【多面】</td> <td>【伝達】 ○</td> <td>【協力】 ○</td> <td>【関連】</td> <td>【参加】 ○</td> </tr> </table>	① 批判的に考える力	② 未来像を予測して立てる力	③ 多面的・総合的に考える力	④ コミュニケーションを行う力	⑤ 他者と協力する態度	⑥ つながりを尊重する態度	⑦ 進んで参加する態度	【批判】	【未来】 ○	【多面】	【伝達】 ○	【協力】 ○	【関連】	【参加】 ○
① 批判的に考える力	② 未来像を予測して立てる力	③ 多面的・総合的に考える力	④ コミュニケーションを行う力	⑤ 他者と協力する態度	⑥ つながりを尊重する態度	⑦ 進んで参加する態度									
【批判】	【未来】 ○	【多面】	【伝達】 ○	【協力】 ○	【関連】	【参加】 ○									

【取組③】

「知床・産業系列」関連科目の中の「観光ビジネス基礎・応用」の授業では、高大連携して、SNSを活用して地元の観光資源などを外国人に紹介するアプリを作成させている。この関連で、生徒は自主的に課外活動を行い、国際会議（ファイルメーカーカンファレンス 2017）に高校生として初めて実践発表をさせることができた。生徒に自分たちの想像がアプリという形になる面白さを実感させるとともに生徒の深い学びにつなげることができた。



4 今後の取組

【取組①】

1年目の成果を踏まえて、他の教科・科目等へ波及させるための研究を行う。具体的には、「ESDの視点に立った学習指導案」の作成を普及させるとともに、ESDを教育活動の主軸とした学校全体計画（シラバス）等の作成を目指す。

【取組②】

評価方法等の検討（観点別評価の推進、評価規準の設定等）と教職員の意識改革を図る。

【展望】

教務部で作成したキャリア教育全体計画を踏まえつつ、教科横断的な学習に関するカリキュラムの作成を行っていきたい。また、カリキュラムについて校内研修等を活用し、ESDの視点から作成していくことで、他教科・科目へ波及を目指す。